

事業者排出量削減計画書 新規・変更

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	〒610-0380 京都府京田辺市甘南備台1丁目1-3					
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	株式会社椿本チエイン 京田辺工場 取締役工場長 金平 誠					
事業者の主たる業種	動力伝導装置製造業（分類番号 2531）					
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上／タクシー150台以上／鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））					
計画期間	平成20年 4月 ～ 平成23年 3月					
基本方針	事業活動、製品、サービスがかかわる環境への影響を認識し、地球環境保全の視点からリーディング・カンパニーとして創造性をもって環境負荷低減に取り組みます。（つばきグループ環境基本方針 による）					
推進体制	京田辺ユニット環境管理委員会を核として、3ヶ年計画及び年度計画を策定し、その進捗及びフォローを行う。					
	環境マネジメントシステム名称	ISO14001 つばきグループ 京田辺ユニット				
	適用範囲	伝動用チェーン等の設計・製造・販売				
	取得年月日	平成15年9月26日				
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	計画内容			
	20～22	加工工程	高効率電動機の採用（新規設備の導入時）			
	20～22	空調温度制御	クールビズ・ウォームビズの実施			
	20～22	照明設備のLED化	ダウンライト（蛍光灯）照明器具を、LED照明器具に変更する			
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （平成19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （平成22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）		
	A 事業所等排出区分	19,306 t	18,757 t	-2.8 %		
	B 輸送車両排出区分	t	t	%		
	C その他排出区分	t	t	%		
	排出合計	*1 19,306 t	*2 18,757 t	-2.8 %		
	目標設定の考え方	CO2排出量は、原単位（生産金額あたり）で2.8%削減とする。				
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	
	全エネルギー	二酸化炭素換算 生産金額	0.892 t・CO2/百万円	0.867 t・CO2/百万円	-2.8 %	
		二酸化炭素換算			%	
		二酸化炭素換算			%	
原単位の指標及び計画数値設定の考え方	受注生産が主体であるために、生産金額とした。					
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）			/	
		取組量等		（二酸化炭素換算）		
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）		t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）		t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（売電量）	kwh	（削減量）		t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）		t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）		t
削減量等合計			*3 t			
差引排出量 （排出合計－削減量等合計）	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）			
	*1 19,306 t	（*2）-（*3） 18,757 t	-2.8 %			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動						
特記事項						

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。

2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。

3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。

4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。

5 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達を採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。